



ホームページ  
「中野あきと」

日本共産党市議会議員 中野あきと・事務所ニュース

# みどりと清流

中野あきと事務所

〒191-0041 日野市南平7-6-72

TEL・FAX 042-599-3350

発行責任者 小林 進

第137号

2013年  
10月発行

しん 赤旗  
ぶん

日刊紙1ヶ月 3400円

日曜版1ヶ月 800円

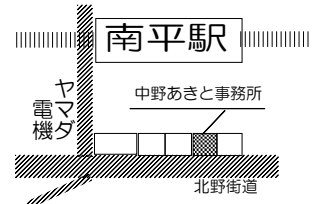
お申し込み 党南多摩事務所

TEL 042-374-4384

または中野事務所へ

法律・生活相談など

お気軽にお立ち寄り下さい



## 平成24年度 決算審査

# 国保税・18%値上げは必要なかった

平成23年3月の市議会では、上げが行われた日野市の国民健康保険税。平成24年度の決算を見ると、24年度の一般会計からの繰入金が見込み(当初予算よりも約7億6000万円も少なく)なっています。このことは、強行された18%の値上げ(一人当たり約1万2000円)は必要なかったことを示しています。

「4年間で43億円の不足する」  
保険税値上げを強行  
市は、国保会計への一般会計からの繰入金の限度を20億円とし、その場合、医療費の増大などで23年度以降の4年間で43億円の財源不足が生じると値上げの必要性を説明しました。その上で、この財源不足を市の繰入金を増額すること、保険税の引き上げの折半で賄うと、値上げを行いました。

平成23年3月の市議会では、上げが行われた日野市の国民健康保険税。平成24年度の決算を見ると、24年度の一般会計からの繰入金が見込み(当初予算よりも約7億6000万円も少なく)なっています。このことは、強行された18%の値上げ(一人当たり約1万2000円)は必要なかったことを示しています。

不足は見込みの3分の1に  
市のシミュレーションによれば、値上げをしなかった場合は、23年度で7億2400万円、24年度で9億3500万円となり、この2年間で合計16億6000万円の財源不足を見込んでいました。

市は、国保会計への一般会計からの繰入金の限度を20億円とし、その場合、医療費の増大などで23年度以降の4年間で43億円の財源不足が生じると値上げの必要性を説明しました。その上で、この財源不足を市の繰入金を増額すること、保険税の引き上げの折半で賄うと、値上げを行いました。

ところが実際には、2年間の合計で5億6000万円の不足に止まり、見込みの3分の1で済んだこととなります。私が、決算審査でこの事実を指摘すると、市もこれを認めました。ならば国保税は引き下げを

市は、国保会計への一般会計からの繰入金の限度を20億円とし、その場合、医療費の増大などで23年度以降の4年間で43億円の財源不足が生じると値上げの必要性を説明しました。その上で、この財源不足を市の繰入金を増額すること、保険税の引き上げの折半で賄うと、値上げを行いました。

私は、そうした事実を明らかにしながら「市が説明してきた値上げの根拠に照らしても、18%もの値上げは必要なかったということだ。ならば、値上げの根拠の期間である残り2年間の国保税は、実態を踏まえて引き下げを行うのが当然ではないか。市民への信義にかかわる問題であり、市に求められる節度だ」と国保税の引き下げを求めました。

救急体制の拡充を！  
市立病院会計の  
決算審査より  
市民に信頼される病院として改革・充実への努力の中にある市立病院。「いざ」と言う時に対応してほしいという多くの市民の願いに応えるためには救急体制のいっそうの拡充が求められます。

決算審査において、救急車受け入れの実態(24年度は66%)やお断りせざるを得ない体制上の問題も質しながら、救急専門医や看護師の確保、処置室の増築やICUの設置など設備面での整備の必要性を強調し、市の支援を求めました。市長もさらに支援をすすめていく立場を示しました。

今年も暑かった。地球温暖化の影響なのか、四十市では41.0度を記録し、川はぬるま湯のようになつたという。水温は32度も上がり、鮎は水温の低い深い所へ隠れてしまい、まったく獲れなくなる。友釣りではオトリが数分で弱ってしまふので、釣りにならない▼「これまで経験したことのない雨」も多かった。鮎釣りで宿を予約しても、前日になり「ちよつと川が大水で、釣りになりませんよ」と電話が来たのは一度ならずである。出水の後には石が転がるので、コケが取れて川が白く見える、いわゆる白川状態になり、釣れなくなる。こう言っていると釣れなかった言い訳じゃないのとくるが、それは邪推である▼10月ともなると鮎は「落ち鮎」となると川を下り、釣りは終る。夏の終わりが、鮎釣りが終わった諦めをもって感じられるのである▼ただ、今は、季節の変化を見送っているだけにはいらない。

今年も暑かった。地球温暖化の影響なのか、四十市では41.0度を記録し、川はぬるま湯のようになつたという。水温は32度も上がり、鮎は水温の低い深い所へ隠れてしまい、まったく獲れなくなる。友釣りではオトリが数分で弱ってしまふので、釣りにならない▼「これまで経験したことのない雨」も多かった。鮎釣りで宿を予約しても、前日になり「ちよつと川が大水で、釣りになりませんよ」と電話が来たのは一度ならずである。出水の後には石が転がるので、コケが取れて川が白く見える、いわゆる白川状態になり、釣れなくなる。こう言っていると釣れなかった言い訳じゃないのとくるが、それは邪推である▼10月ともなると鮎は「落ち鮎」となると川を下り、釣りは終る。夏の終わりが、鮎釣りが終わった諦めをもって感じられるのである▼ただ、今は、季節の変化を見送っているだけにはいらない。

## 短信

今年も暑かった。地球温暖化の影響なのか、四十市では41.0度を記録し、川はぬるま湯のようになつたという。水温は32度も上がり、鮎は水温の低い深い所へ隠れてしまい、まったく獲れなくなる。友釣りではオトリが数分で弱ってしまふので、釣りにならない▼「これまで経験したことのない雨」も多かった。鮎釣りで宿を予約しても、前日になり「ちよつと川が大水で、釣りになりませんよ」と電話が来たのは一度ならずである。出水の後には石が転がるので、コケが取れて川が白く見える、いわゆる白川状態になり、釣れなくなる。こう言っていると釣れなかった言い訳じゃないのとくるが、それは邪推である▼10月ともなると鮎は「落ち鮎」となると川を下り、釣りは終る。夏の終わりが、鮎釣りが終わった諦めをもって感じられるのである▼ただ、今は、季節の変化を見送っているだけにはいらない。



保育園、学童クラブの  
質、量ともに充実を！



「安心して預けられる認可保育園を増やしてほしい」

「詰め込み保育や大規模学童は改善してほしい」「正規の保育士や学童指導員をきちんと配置してほしい」

この間、待機児解消をはじめ保育園や学童クラブの環境改善を求めて、お母さんお父さんたちが自ら立ち上がり声を上げたり、不服申し立ての運動を各地で進め、マスコミがこれを取り上げ社会問題化するなど、保育園や学童クラブの問題に、これまでにない注目と関心が向けられています。

そうした新たな事態も踏まえて、日野市の保育園、学童クラブを充実・発展させてほしい、一人一人の子どもを育ちをしっかりと支え、子育て世代を応援する骨太い政策へと発展させてほしいという趣旨で、①保育園の待機児解消へ向けて、②たかはた保育園の廃止・民営化問題、③保育士など職員の処遇改善問題、④学童クラブの今後のあり方等

について質問・提案を行いました。

その中で、待機児解消については27年度においても、まだ100名を超す待機児が生まれることを前提にした対策にとどまっていることや、たかはた保育園の廃止・民営化で園舎を取り壊すことになった場合は、園舎建設時に投入された東京都の補助金の内、約2000万円を返還しなければならない可能性があるという新たな事実も明らかになりました。

大坪市長は「子どもの保育園関係は劣悪な環境に置かれつつあるという問題意識はもっております」「今後、量質ともに充実させる努力はしていきたいと思っておりますし、学童クラブにおいても新しい制度のもとでできる限りの努力はしてきたと思っています」と答弁しました。

中野あきと



「ごみ問題」で大坪市長  
「地元住民・市民の合意で」発言を撤回

日野市の「ごみ問題」で大坪市長は、「最後は市長の判断で」と述べ、「住民・市民の合意で」というこれまでの発言を大きく後退させました。

小金井市・国分寺市の可燃ごみを受け入れ、建替えが必要になったクリンセンターのごみ焼却炉を今より大きくすると言う「ごみ問題」について、6～7月に市内8カ所で説明会が行われました。この中で市長は、「計画は市民全体及び地元住民の合意という二つの合意がないと進められない問題だ」と、繰り返し述べてきました。

ところが9月10日に行われた、ごみ広域化に反対する住民4団体との話し合いでは、引きつづき理解を得る努力はするが「最後は市長である私の判断

で」と、態度を一変させました。9月議会で「地元などの合意が得られなくても市長の判断で進めるということか」という日本共産党市議団の質問に対して市長は、「全ての合意が望ましいがそれは難しい。決定権は行政にある」と答弁。「合意」がなくても強行することを明らかにしました。

市長の答弁は、解決への糸口が見えなくなってきたこの問題を逆戻りさせるものです。「ごみ広域化」に反対する住民4団体は、10月12日午前「反対を訴える」デモ行進を計画しています。

日野市の基本方針である「市民参画の市政運営」という立場に、市長は立ち返るべきではないでしょうか。

◇◇ミニ・ニュース◇◇

■「巨大物流センター建設中止に」の請願は継続審査

9月17日に開かれた環境まちづくり委員会で、「東芝跡地の巨大物流センター建設を中止し、新たな企業の誘致を求める請願」は12月議会まで継続審査になりました。24時間稼働の物流施設ができると、周辺住民の生活が一変してしまうと、訴えているものです。

■平山橋から南平までの浅川堤防の整備

市道として認定し、これから整備が予定されていた浅川堤防道路が、政府の国土強靱化の動きの中で先送りになる見込みです。市は、「国の方で浅川の氾濫を防止するために堤防の嵩上げを検討する必要があるという動きがあり、その動向をみて対応したい」としています。

■オスプレイの撤回を求める請願は不採択

CV22オスプレイの配備先に横田基地が有力になっている問題で、オスプレイ配備撤回を求める請願は、自民、公明、民主などの反対で不採択になりました。

■日野市へ要望書提出

10月1日、「住みよい豊田をつくる会」は豊田地域の「川辺堀之内線ミニバス運行を増やしてほしい」「3・3・2号線と豊田駅からの道路に信号機を設置してほしい」等の要求をまとめ、日野市へ申し入れをしました。中野あきと議員も同席しました。

■「平和のつどい」に300人が参加

9月7日に開催した「2013年・平和のつどい」には、会場の七生公会堂ホールいっぱいの300人の方が参加されました。小森陽一さんの講演「安倍晋三政権の危険な本質」は「非常に分かりやすかった」など大変好評でした。ご協力ありがとうございました。

———2013年「平和のつどい」実行委員会

《2013年 11月の無料法律相談》  
市役所6階 共産党控室 午後1時～3時  
11月 14日(木)  
※予約が必要ですので、お申し込み下さい。

ご感想・ご意見を  
お寄せ下さい。